

地域ICT利活用連携 シンポジウム

— 情報通信技術の地域医療への活用 —

滋賀県では、先進医療機器と情報通信技術（ICT）の活用による広域連携事業を進めており、その一環として全県型遠隔病理診断ネットワーク事業を展開し、この度、システムの稼働を迎えたところです。

どこに住んでいても、誰もが至適な医療を受けられる社会にしていくためには、限りある医療資源を最大限に活用し、医療機関同士が連携または分担することで、無駄のない医療体制を構築する必要があります。ICT技術はこれを円滑に促進し得る手段となります。

この度、事業の普及と稼働を記念して、地域ICT利活用連携の現状と他府県の取り組みとともに学ぶシンポジウムを開催することとなりました。

地域医療の現場、遠隔病理診断の第一線でご活躍されています先生方の貴重な講演を聞く絶好の機会ですので、医療関係者、健康に興味のある方はふるってご参加ください。

日時：平成25年10月26日(土) 10時～16時30分
場所：コラボしが21(大会議室)

(滋賀県大津市打出浜2-1)

入場無料

基調講演 『ICT利活用による地域活性化への取り組み』

総務省近畿総合通信局 情報通信振興課長 松山 和馬 様

第一部：シンポジウム『ICT利活用による地域医療の連携』 10:30～

(1) かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)の紹介

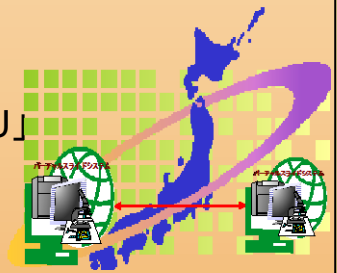
研究推進機構瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏 先生

(2) 医療と介護を繋ぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク「Net4U」

山形県鶴岡地区医師会 会長 三原 一郎 先生

(3) 滋賀県ICT医療ネットワーク構築の進捗状況と今後の課題

NTTデータ経営研究所 マネージャー 中林 裕詞 様



第二部：シンポジウム『遠隔病理診断ネットワークの現状』 13:30～

(1) 滋賀県の現状

滋賀県立成人病センター研究所 所長 真鍋 俊明 先生

(2) 長野県での遠隔病理診断の現状

信州大学医学部 講師 吉澤 明彦 先生

(3) 遠隔病理診断医療機関間連携の活用と今後のがん診療国策最前線

東京大学医学部 准教授 佐々木 毅 先生

(4) 大阪地区における病理診断の現状と遠隔診断ネットワークの必要性

大阪大学医学部 教授 森井 英一 先生

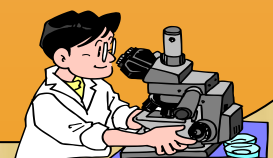
(5) 米国のデジタルパソロジーの現状と遠隔病理診断

マサチューセッツ総合病院PICTセンターを訪問して

自治医科大学 教授 福嶋 敬宜 先生



総合討論



〈主催〉

滋賀県、滋賀県立成人病センター

〈申込み方法〉

電話、FAX、メールのいずれかで、氏名、電話番号を下記へご連絡ください。

〈申込先〉 滋賀県立成人病センター研究所

TEL 077-582-6034(直通)

FAX 077-582-6041

メール kenkyu@shigamed.jp

〈その他〉

- ・日本医師会生涯教育制度指定講習会として承認(5単位)
- ・日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 医療情報技師更新ポイント申請中(1ポイント)
- ・機器の展示が可能です。(連絡先：横江・黒住まで)

会場案内

駐車場が完備されておりませんので、会場へは公共交通機関でお越しください。

コラボしが21「大会議室」

大津市打出浜2-1

TEL 077-511-1400

JR琵琶湖線大津駅からバス約7分

徒歩約20分

膳所駅から徒歩約15分

京阪電鉄石場駅から 徒歩約3分

